

2019年4月5日

ところざわ倶楽部「広場」

[1]

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2019年4月号（第126号）

発行責任者 佐藤 重松



食トコ調理実習 “参鶏湯”

写真撮影/小倉洋一氏



時局講演会

原発問題を語る



2019年 5/14 (火)

講師:元駐スイス大使 村田 光平氏

原発問題の本質は？ 新たな文明の創設とは？ 経済至上主義の行く末は？

講師・村田先生は現代社会の歪を、「新たな文明のあり方」から掘り起こし、この社会の問題の本質を

解き明かしておられます。私たちも皆でこの講演に参加し、今の社会の歪の本質を考えてみましょう！

開催日時 : 2019年5月14日 受付: 13:00 開演: 13:30~15:30

会 場 : 新所沢公民館ホール

内 容 : 現代社会と原発問題

参 加 費 : 無料 *一般の方の参加も歓迎 先着 200名

問い合わせ先: ところざわ倶楽部 森野 Tel 04-2939-9756、戸田 Tel 090-2312-4683
(駐車場が狭い為、公共交通機関をご利用下さい)

時局講演会

福島原発、母性文化と平和について（要旨）

元駐イスラエル大使 村田 光平

はじめに

世界に欠けているもの、それは哲学と倫理だと思われます。福島の悲劇を生んだ原発にひそむ諸問題（廃棄物処理など）を放置しながらの再稼働は不道徳、無責任を象徴するものです。特に、東京から 110 キロの第 2 東海原発の再稼働は、最悪の場合首都機能の麻痺をもたらし日本の命運を左右しえうるものであり断じて認められません。

1. 母性文化と平和

最近の世相からは「天地の摂理」が実感されます。天地の摂理は哲学により究明される歴史の法則を意味します。想起されるのは老子の「天網恢恢疎にして漏らさず」という名言で、現に悪事が次から次に露見しております。日本が直面する緊急課題は、傑出した専門家が警告する福島第一 2 号機の建屋及びすでに損傷している排気筒が震度 7 クラスの地震により崩壊し、その結果放射能が拡散し東京も住めなくなるという現実の危機への対応です。そのため一日も早く東京五輪を返上し、福島事故収束に向けて全力投球することが求められます。本来日本は和と連帯を特徴とする母性文化を有していました。明治維新後、軍国主義という形で競争と対立を特徴とする父性文化が導入されました。歴史は父性文化が最終的には破局に通ずるものであることを示しております。

2. 福島事故の教訓

福島原発事故は、そのもたらす惨禍は人間社会が到底受け入れがたいものであることを示しました。このような事故を生む科学技術は、その可能性がいかに少ないかにつき如何なる数値が援用されようとも完全にゼロでなければお払い箱にするべきであると、故ハンス・ペーター・デュール博士（元マックス・プランク原子力研究所長）は主張しました。この「ゼロ原則」こそ、福島事故から学ぶべき教訓だと信じます。また、これに劣らず重要な教訓は経済重視から生命重視への転換です。

3. 世界への三位一体の発信

日本は民事、軍事を問わない完全な核廃絶の実現を訴える歴史的使命を有するに至りました。地球倫理、母性文明及び真の核廃絶という三位一体の目標を追求しなければなりません。母性文明は、物質主義から精神主義へ、「貪欲」から「少欲、知足」へ、そして利己主義から連帯へと三つの方向転換を必要とすると考えられますが、その実現には三つの重要な課題があります。すなわち「地球倫理の確立」「真の指導者の養成」及び「経済至上主義に対する文化の逆襲」です。地球倫理を支えるのは天地の摂理です。真の指導者は人類と地球の将来に責任を持たなければなりません。経済至上主義は仕事場での「リストラ」の例にも見られるように「人間の排除」をもたらしております。効率の追求の行き過ぎは人間の尊厳を損ない無視するものであります。AI（人工知能）の孕む危険性といえます。人間性を回復するための文化の逆襲が痛切に必要とされております。真の核廃絶については日本が脱原発を実現することが大前提となります。上述した天地の摂理こそ、人類と地球の将来に我々が希望を抱くことを可能にしているのです。

（全文は“ところざわ倶楽部ホームページ”をご覧下さい）

講師略歴（村田 光平 むらた みつへい）



1938年2月12日生まれ。
元駐イスラエル大使。1961年東京大学法学部卒業後外務省に入省。
国連局審議官、宮内庁御用掛、
公正取引委員会官房審議官、衆議院涉外部長、駐仏公使、駐セネガル大使などを歴任。現在、
日本ナショナルトラスト顧問、日本ビジネスインテリジェンス協会顧問、東海学園大学名誉教授、天津科技大学名誉教授。

おすすめの1冊
第1回

楽しさかな 亂読

25期 鈴木 正明

読書は好きだが名作を系統的に読むタイプではなく、自由奔放に読んできた。若き日の大病や就職後の単身赴任がそんな癖をつけたのだろう。そういうわけでこの欄の企画者の意図からは少し外れているかもしれないが、ご容赦いただいて、今も家にいる本たちの中からとびきり、いい本たちの一部を紹介します。

① 「若き日の日記」みすず書房 神谷美恵子



著者は医師としてまた文学へのうずきもあって、著者自身の内面世界を描いたものと思う。この本には一応健康体にはなったものの、これから先の人生に不安を覚えていた30代後半の私は大いに慰められ、力をもらったように記憶している。

著者の生きることへの真摯な姿勢に打たれる。

② 「流れる星は生きている」中央公論新社 藤原てい



著者は作家新田次郎の奥さんで数学学者藤原正彦の母である。この本は満州からの苦難に満ちた引き上げの記録である。特に夫は仕事で残り、ていさんは子供3人を連れての引揚げだった。我が家も似たようなもので、ほぼ同じ経路で佐世保港に着いたのは昭和21年の秋だった(小生記憶はない)。両親の苦難を忘れないためにも時々読む。

③ 「立原正秋」新潮社 高井有一



立原の小説は何冊か読んだが、大体がご婦人との交遊が主で、静かな日本文化のなか、研ぎ澄まされた文章と立原の激しい情念がぶつかるところがおもしろい。「男性的人生論」はおすすめ。

④ 「マレー・ジレンマ」勁草

書房 マハティール

長いことマレーシアの首相をつとめ、ルックイース

トポリシーでマレーシアの今日を作りあげた。一時引退していたが、少し前に再び首相に返り咲いた。マレーシアをどういう国にするか明確なビジョンと戦略があるのが強みで頑張って欲しい。

⑤ 「聖（さとし）の青春」講談社 大崎善生



聖とは故村山聖八段のことで約20年前に病に倒れ、29歳で人生を全うした将棋八段のことだ。将棋というものはどういうわけかその魅力に取りつかれると始末のわるいものらしく、だから連盟でもプロになるには年齢制限を20代半ばで抑えているが、これがまたドラマを生む非情な世界である。どんな世界も似たようなものか?

⑥ 「映画女優 若尾文子」みすず書房 四方田犬彦偏



定年後、私は戦後の日本映画を集中的に観てきた。その過程で若尾文子に魅力を感じた。それはさておき映画というものは俳優が演じてはいるが、作るのは監督だ。もっと言えば脚本で大体は決まってしまう。そのことがよくわかるのがこの本で、増村監督は戦後の日本の女性のありようを研究、イメージし、それを若尾に託したことがわかる。

そのほか、「連戦連敗」「ケネディの道」「されどわれらが日々」「朱夏」も良いです。

新会員の声

『楽悠クラブ』で音楽知識が深まる！！

樂悠クラブ 吉野 正矩



平成という一つの時代が終わり、新しい時代が始まります。一つのことが終わりを告げるということは何かが新しく始まる事であります。自分が始めるのは、音楽でした。

青年時代にヴァイオリンを多少習つておりましたが、この楽器は、歳をとると首と肩が疲れます。市民大学2年次で「音楽」を選択して入つてみたところ、笛やピアニカ等の教育楽器を使って、講師笠松先生が作曲された雅楽の曲を奏でるのでした。私は琵琶から進化したマンドリンに持ち替えて、発表会に間に合い、皆で大いなる達成感を味わいました。

感を味わいました。

肩も凝らないで、繊細な美しい音色が気に入り、とうとう「所沢マンドリンクラブ」の研修生に入り、60名の大オーケストラの中で、舞台に出られるようになればいいな~と欲張っております。

この度「楽悠クラブ」に入らせていただき、クラシック曲や、殆んど見る事の無かった歌劇を堪能出来て、次回をワクワクして待っております。



「ところざわ俱楽部」に入り

アジア研究会 地球環境に学ぶ



市民大学の1年次の授業では受け身の態度で、ふーん、なるほどーと大人しく聞いていれば良かったが、2年次では「住みたいまち所沢」のクラスで、グループ員との活発な議論が楽しく、大変有意義に過ごさせて頂いた。さて、卒業後どうするかでチョット考えていましたが——。

最近の世相は、世界ではナショナリズムの台頭、韓国の反日、日本の国会の事実隠しや空転等々で世間を騒がせており、のほほんとしているよりも少しほはる刺激のあるグループに入ろうとうろうろしていたら、“ところざわ倶楽部”の「アジア研究会」「地球環境に学ぶ」が目につき倶楽部に入会しました。

未だ会合には2-3回程度の出席でそれぞれの議論に参加できるほどの知見を持ち合わせていないが、「地球環境に学ぶ」「アジア研究会」それぞれの俱楽部のメンバーの方々は、知識・経験を多く持ち合っている方が多く、教えられることが多いとこれから先も楽しみと考えています。

2年次の「住みたいまち所沢」のメンバーでも皆さん非常に優秀で、かなり刺激を受けていましたが、ところざわ倶楽部の皆さんにも同じように感じており、改めて市民大学に来る方々はすごいなーと感心しています。これから倶楽部への参加で、浅学菲才な私もついて行けるか分かりませんが、色々な場面で“損か得か”の判断基準ではなく“その考えは正しいか?”を信条としながら、それぞれの倶楽部に付いて行こうと思っています。

「戦争と平和！」
第 10 回

一枚の写真が語るもの

稻村 洋二



「焼き場に立つ少年」

ここに一枚の写真があります。この写真は米国の報道写真家ジョー・オダネル (Joe O'Donnell) 氏が 1945 年長崎の爆心地で写した写真です。撮影当時の状況をオダネル氏は次のように述べています。

“佐世保から”

長崎に入った私は、小高い丘の上から下を眺めしていました。すると、白いマスクをかけた男達が目に入りました。男達は、60 センチ程の深さをえぐった穴のそばで作業をしていました。荷車に山積みした死体を、石灰の燃える穴の中に次々と入れていたのです。

10 歳ぐらいの少年が歩いてくるのが目に留まりました。おんぶひもをたすきにかけて、幼子を背中に背負っています。弟や妹をおんぶしたまま、広っぽで遊んでいる子供達の姿は、当時の日本でよく目にする光景でした。しかし、この少年の様子ははっきりと違っています。重大な目的をもってこの焼き場にやってきたという強い意志が感じられました。しかも裸足です。少年は焼き場の淵まで来ると、硬い表情で目を凝らして立ち尽くしています。背中の赤ん坊はぐっすり眠っているのか、首を後ろにのけぞらしたままです。少年は焼き場のふちに 5 分か 10 分立っていたでしょうか。白いマスクの男達がおもむろに近づきゆっくりとおんぶひもを解き始めました。この時私は背中の幼子が既に死んでいる事に初めて気付いたのです。男達は幼子の手と足を持つと、ゆっくりと葬るように、焼き場の熱い灰の上に横たえました。まず幼い肉体が火に溶けるジューッという音がしました。それから眩いほどの炎がさっと舞い立ちました。真っ赤な夕日のような炎は直立不動の少年のまだあどけない頬を赤く照らしました。その時です。炎を食い入るように見つめる少年の唇に血がにじんでいるのに気がつい

たのは。少年があまりきつく噛みしめている為、唇の血は流れることもなく、ただ少年の下唇に赤くにじんでいました”

何と残酷で悲惨で悲しい写真でしょうか。この写真は戦争のむごさを如実に物語っています。戦争の悲惨さは誰もがよく知っていて多く語られます。我々が生きてきた昭和と平成、特に昭和 20 年 8 月 15 日以降日本は戦争のない平和な、世界でも稀有な国のひとつです。平和について語るとき戦争の悲惨さを語ると同時に、この戦後 70 年の平和はどのようにもたらされたのか元号が変わるこの時期に考えてみることが必要なことだと思います。国家運営の基盤は「憲法」です。この日本国憲法の 9 条が戦後の日本を平和に導いた大きな力となったことは事実だと思います。しかしながら、憲法前文に述べられている、日本が武力をもたない理由として“平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して我らの安全と生存を保持しようと決意した”と書かれています。でも、現状はそうでしょうか。霸権を露わにして国際法を破って海洋進出を進め、国内では人権を弾圧している国、一方では歴史を自分の都合の良いように変え国際法、国家間の契約も無視あるいはやぶり、平氣でうそをつく、民度の低い国が存在する現状です。国家間の紛争を解決するのにリベラルな考え方を持つ人達は“外交交渉で解決すべきで戦力は必要ない”とよくいいます。そして憲法は変えるべきでないといいます。本当にそうでしょうか？外交力は國の力です。そこに含まれるのは“経済力、社会基盤の成熟度、人権、自由、民主主義そして安全保障力”です。戦後の日本の平和も日米の安全保障条約の“抑止力”によりもたらされた面が大きいと考えます。これから平和を考えるときに我々は日本が“凛”として立つために政治をよく見極めることが必要だと思います。

オダネル氏は帰国後、周りから非難されながらも反核運動を続けられ、「焼き場に立つ少年」を長年探されましたが見つけられなかったとのことです。2007 年 8 月 9 日死去（享年 85 才）奇しくもその日は長崎の原爆記念日でした。

サークル活動報告

あちらこちら走り回っています

所沢の自然と農業
穴井 二三徳

“いつまでも健康で楽しみながら学び、地域に貢献する”ことをモットーに地域活動を展開する我がサークルはメンバー数29名。所沢の里山保全や農業活性化に向けて、積極的な活動を行っています。

年間の取り組みとしてはまず、休耕地活用の一環として市民大学ファーム（市内東部）、山田ファーム（西部）と、それぞれが300坪を超す農地での農作業を通して有機無農薬の野菜作りに取り組んでいるほか、循環型農業への一助となればということでここ数年、陽子ファームや三芳町・伊東農園の落ち葉掃き・堆肥作り作業にボランティアとして参加し、里山の保全・再生活動に取り組んでいます。

新しい取り組みとしては、国の重要文化財であり東京国立博物館が管理する市内「柳瀬荘黄林閣」の散策路整備や、早稲田大学の隣地に位置する「トトロの森21号地」の落ち葉掃き・堆肥作りがあります。我々自



山田ファームの収穫祭



柳瀬荘での準備体操

トトロの森21号地の
落ち葉掃き・堆肥作り

身が主体的に里山の整備や循環型農業に取り組んでみようとする試みであり、いずれも順調なスタートを切っています。

また、4月には親睦を兼ねてのハイキング、5月・10月には長野県のリンゴ農家への花摘み・収穫体験を兼ねてのボランティア活動など、我がサークルは所沢を超えて

の活動にも随時取り組んでいます。

皆さん方も参加してみませんか。

シェイクスピア戯曲を朗読する

ドラマティック・カンパニー
高橋 信行



文化祭での演劇風景

ドラマティック・カンパニーは、昨年6月のところざわ倶楽部文化祭でシェイクスピア原作「ハムレット」（松岡和子訳）を抜粋朗読し、お陰様で好評でした（と思います）。11月には同じく「マクベス」抜粋の配役を決めてサークル内で発表会をしました。どれも20分程度の時間ですから、皆さんにわかりやすい場面で、且つ参加者全員のセリフが出てくる場面を探すのが一苦労でした。朗読指導をいただいている笠松先生共々台本決めには、興奮しながらも楽しい時間を費やしました。全員役になりきっての練習を繰り返し行い、

役柄を自分なりに解釈して表現することにそれぞれが没頭しました。事後の達成感や先生のコメントを聞く楽しさが朗読に駆り立てる理由の一つなのかなぁと思います。それと、笠松先生の熱血ご指導ぶりが私たちを惹きつけてやまないです。先生の膨大な知識と経験から溢れ出てとどまるところを知らないお話を、私たちを虜にしてしまうのです。今読み進めていく「オセロ」（松岡和子訳）も間もなく終わり、4月から次の作品に取り組む予定です。



サークル発表会風景

サークル活動計画

1. 葵の会 (水上 俊彦 080-6855-5868)

4月 12日(金)中央公民館 13:00~13:30 例会 13:30~15:30
及川先生講義「古事記上巻⑦」(4月~7月4回シリーズ)
5月 10日(金)中央公民館 13:00~13:30 例会 13:30~15:30
及川先生講義「古事記上巻⑧」、聴講者大歓迎!

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

4月 17日(水) 13:30~16:00 中央公民館
時局放談会(分科会&全体会)
5月 22日(水) 13:30~16:00 中央公民館
テーマ未定

3. 活きいきシニア福祉の会 (川上 紀春 090-5573-2548)

4月 27日(水) 13:00~15:00 例会 生涯学習推進センター
憲法、経済状況等勉強会
5月 22日(水) 13:00~15:00 例会 場所未定
福祉関連勉強会(予定)

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)

4月9日(火) 亀井氏(元武蔵野音楽大学教授)による講演と
出演されたモーツアルト歌劇「魔笛」1998を鑑賞&懇親会
5月7日(火) R.シュトラウス歌劇「ばらの騎士」(暫定)
いずれも 13:15 ~ 中央公民館3階8・9 學習室

5. 食を通して所沢を知る会 (園田 ヒロ子 090-4005-1882)

4月 16日(火) 10:00~12:00 ふらっと
出前講座:食と農をとりまく最近の状況 講師:渕野先生
共催:所沢の自然と農業サークル 一般の方歓迎
5月 21日(火) 視察船乗船(新東京丸)と豊洲市場見学

6. 地域の自然を考える会 (岩本 賢次 2923-9324)

4月 23日(火) 10:00~12:00 予定日
竹林地保全作業(筍堀り等)
ご希望の方、事前申し込み。

7. 地球環境に学ぶ (中島 峰生 2928-1161)

4月 16日(火) 9:00~11:00 新所沢東公民館 研修室4
定例会:持寄り学習
5月 21日(火) 新東京丸による東京港施設見学他、食トコに同行
定例会:休み

8. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会 (田口 元也 090-9820-5668)

4月 6日(土) 13:20~13:40 航空公園
S Pチアダンス「よってけステージ」 実演・発表
5月 8日(水) 13:15~15:00 中央公民館 定例会
「市政 ひよこ塾」企画検討ほか

9. 所沢の自然と農業 (稲村 洋二 2992-1751)

4月 11日(木) 定例会新所沢公民館 13:00~15:00
4月 16日(火) 渕野先生講演会、ふらっと 10:00~12:00
4月 19日(金) 柳瀬庄黄林閣散策路整備 9:30~11:30
4月 25日(木) 寺坂棚田~羊山公園里山ウォーキング

興味のある活動に参加してみませんか?

10. 野老澤の歴史をたのしむ会 (小川 雅愛 2907-9476)

4月 18日(木) 9:10~15:00 山口公民館 学習室2号
山口の語り部と歴史散策(澤田家、城址、来迎寺)・民話
5月 1日(水 休日) 9:00~14:20 航空公園駅バス乗り場
「多門院(寅まつり)~三富新田地割散策」希望者净瑠璃見物

11. ドラマティック・カンパニー (高橋 信行 090-9393-6238)

4月 6日(土) 10:00~12:00 中央公民館 7号学習室
4月 20日(土) 10:00~12:00 中央公民館 7号学習室
「オセロ」を継続朗読。

12. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

4月 9日(火) 10:00~12:30 西新井会館
洋画「怪傑ゾロ」(75年)アラン・ドロン主演
4月 23日(火) 10:00~12:30 西新井会館
邦画「おくりびと」(08年)~納棺師の演技~本木

13. 脳活サークル (加曾利 厚雄 2939-2308)

4月 22日(月) 13:30~16:00
こどもと福祉の未来館/1F・多目的室2号
総会・31年度の取り組みの意見交換、そしてお疲れさん会

14. 傍聴席 (石堂 智士 2947-0835)

4月 15日(月) 14:00~16:30 新所沢東公民館
市議選アンケート結果の中間報告、
残り時間は自由討論
5月 20日(月) 「今後の活動の検討」など

15. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

4月 19日(金) 10:00~13:00 こどもと福祉の未来館ボランティア活動室1号館 定例会 ①5~8月活動計画
②民話読み合わせ「河童のお伊勢参り」「東光寺の金毘羅さん」「滝の城の竜」 *5月17日(金) 定例会

理事会報告

3月 11日(月) 第4回理事会を開催
 • 佐藤会長コメント 東日本大震災から8年たった追悼の日。
 • 「時局講演会」5月14日(火) 新所沢公民館ホール
 13:30 開演 元スイス大使 村田光平氏「原発問題を語る」
 • 「ところざわ倶楽部まつり」として文化祭・サークル発表会をセットで開催する。全サークルや個人での参加による舞台、ロビーでの演芸・発表・展示で盛り上げる。
 開催日程・場所の候補は、9月24日、25日松井公民館
 3か月前に確定する。
 • 「文芸講座」講師 竹内好夫氏(元高校教師)テーマ 平家物語
 開催日 5/27 6/3 6/10 6/17 (全講座月曜日開催)
 時間 13:30~15:30 会場 生涯学習推進センター201号室
 会員 1,500円 50名 一般 2,000円 30名を予定
 第5回理事会 4月8日(月) 10:00~12:00
 第3回実行委員会 同日 13:00~15:00 共に新所沢東公民館

みんなの広場 第12回

傍聴席 中村 直子

市民の手づくりコンサート

所沢市民文化センターミューズは1993年に開館。90年代に近隣各市に公共ホールが造られていきました。市民大学のあの細山さんは、既に市民と共にホールの企画・運営をしている自治体職員の話を聞く機会を設けてくれました。しかし所沢市では、市民参加型の企画・運営はありませんでした。そんな時、知合いの演奏家がわが家で演奏をという話になり、仲間が集まってホームコンサート。賑やかな夜を楽しみました。かねがねミューズを自分たちの好きな音楽を聴ける場にしたいと夢を持っていた仲間です。その場の勢いから、この演奏をミューズで聴いてもらいたいと言い出したのです。ただそれだけのきっかけで『音のつどう風景実行委員会』が出来ました。音楽をもっと身近に聴きたい、聴いてほしいという聴き手と演奏者の思いがつながって生まれた、市民による手づくりコンサートです。聴きたい音を求めて演奏者を探すことから始まり、チラシの作成、チケット販売、当日の会場づくりなど何でもやりました。みんなで準備することは楽しいし、聴いてよかったですという声が嬉しいのです。特に作曲家笠松泰洋さんとの出会いにより古楽器演奏から民族楽器など、聴く機会の少ないコンサートの企画も出来ました。手づくりコンサートは38回続けてきましたが、ただいま休眠中です。

芽柳の少年ほどの色であり
池圓む巣箱大樹の肩を借り
花あせび舞妓の髪を飾りたや
初飛行リュウグウ遙か木の芽晴
春光を乱反射して子らの声
残る鴨終の棲家といふやうに
下枝には早やも実を持つ馬酔木かな
アルマン機模したる駆舍風光る
草青む芝駆け回る声高し
春落葉青海波(せいがいはなる石畳)
轉りやバスケボールの放物線

河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 千代
高橋 三加子
高光 泉
利根川 啓一
中嶋 弘子
中村 直子

平和へと翔べよ霧戰春闌ぐる
滑走路なりし地平の大ふぐり
愛犬のリールも長く春うらら
翼抱く少年兵像鳥雲に
黄はいつもゆれている色花菜かな
芝青む模型ヒコーキ墜落す
草青む園児紅潮持久走
バスの窓かすめ木蓮花盛り
まだ透ける櫻大樹やかかり凧
世界地図描きそこねたる蟻の道

橋本 佑子
平栗 彰子
宮本 信生
荒幡千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
海老澤愛之助
柏谷のぼる
鈴木 征子
鈴木 すぐる



むさし野俳句会 航空公園吟行 作品抄（三十一年三月）

《編集後記》

4月初旬と言えば「満開の桜」というのが慣用句であったが、今後は「葉桜」が使われそうだ。

年々開花が早まり花見時は3月末、これも温暖化の影響なのである。温暖化は単に気温が上がるのではなく、気候の変動が大きくなると言われている。

今年の1月31日に1、2ミリの雨が降り月間雨量0を免れたが、2月末からは雨の日が多くなったのも温暖化の現われなのかな。

雨が降らなければ作物は育たず、多ければ病虫害を受ける。程々が良いのだが、家庭菜園をやっていて毎年天候に振り回されている。

ネットでの炎上やバイトテロのように社会も過激化していて、中庸は片隅に追いやられている。
(松崎 記)

「広場」問合せ 玉上 佳彦 (090-2497-1076)

川柳 四十二 作品発表 選
課題「知る」
犬は知る散歩で出会うあの女性
知った顔話続けて思い出す
好奇心持ちつけければ長寿とか
厚化粧したらスッピン怖くなる
今はスマホに聞いて十を知る
知る意欲何時まで経つても衰えず
笑い顔もう見られない写真帳
避難先はやぶさで行く竜宮城
膝痛め歩きを休みホツとする
女の子電話応対ませていい
散歩する歩幅も延びる風は春
やつと古希百歳時代まだ遠い

突方 ど庵 突鼻 突拍
拍 う閑 拍・ 鼻繩 どう庵
子 声 し子 子鬚 鬚 文人 う子
子 声 し子 子鬚 し子 好き

次回（第42回）課題「生協」そして「自由句」、締切り日：4月20日、担当中島まで、どなたでも宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp FAX04-2928-1161